令和８年度大学院入学試験専門試験問題
（中期募集）

教育実践高度化専攻
発達支援教育実践研究コース
（学校ヘルスケア領域）

注　意　事　項

1　問題用紙と解答用紙は別である。解答は、解答用紙に記入すること。

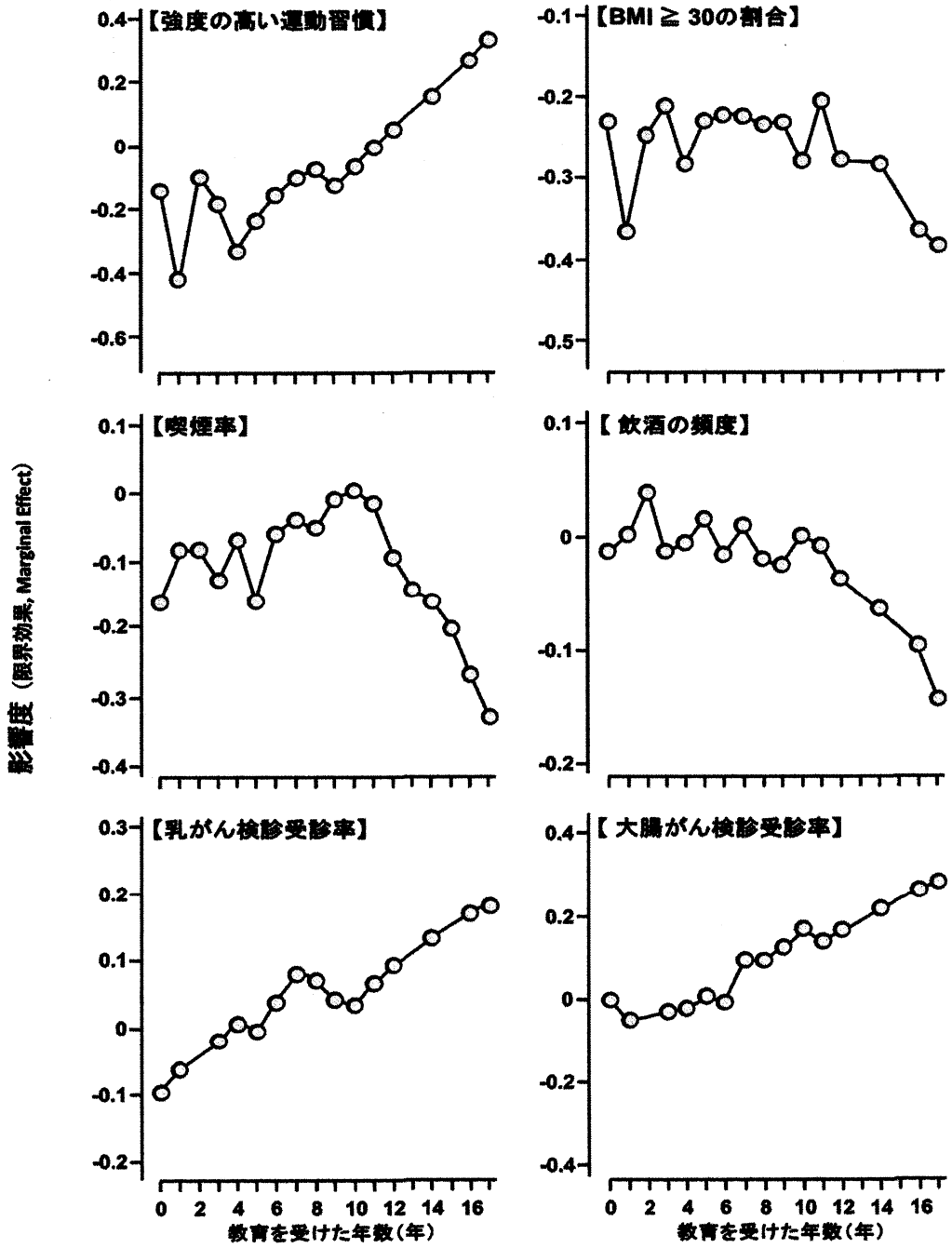
2　解答用紙には、受験番号を所定の欄に必ず記入すること。

3　解答用紙のみ返送すること。なお、問題用紙は回収しない。

問　題

次ページの図は、イギリスおよびアメリカの複数のデータセットに含まれる25歳以上の人々のデータを用いて、学校教育を受けた年数が学校教育終了後の健康行動（運動習慣、BMIが30以上の肥満の割合、喫煙率、飲酒頻度、乳がん検診の受診率、大腸がん検診の受診率）に及ぼす影響を分析したものである。図からは、教育年数の増加に伴い、これらの健康行動が全体として改善する傾向が見られる。

このような健康行動の改善がみられる要因として、どのようなことが考えられるか。図の内容を踏まえたうえで、あなたの考えを述べなさい。なお、考察にあたっては、必要に応じて引用元の文献を参照してもよい。解答は1,200字程度にまとめること。



図．様々な健康行動に対する教育年数の影響

教育年数の増加に伴い、学校教育終了後の運動習慣、BMI が 30 以上の肥満の割合、喫煙率、飲酒頻度、乳がん検診の受診率、大腸がん検診の受診率といった健康行動が改善する。ただし、限界効果（Marginal Effect）とは、教育年数を 1 年増やすと、値が何%増減するか（例えば 0.1 であれば 10%増加の意）を示す指標である。

（図は、Cutler DM, Lleras-Muney A. Understanding differences in health behaviors by education. *J Health Econ*, 29, 1-28, 2010. の Figure 1 を出題者が改編。）